

◆◆ 柴田市長 所信表明 ◆◆

「もっと住みやすい街へ やっぱり住みたい街へ」

3月市議会定例会にて、柴田市長が所信表明を述べました。

所信表明に先立ち、先般の市職員の不祥事に関し、行政の長として深くおわびを申し上げます。今回の不適切な会計処理は、市政に対する信頼を著しく失墜させ、誠に遺憾であり痛恨の極みであります。

迅速かつ公正な対応策として、2月10日に市長直轄のタスクフォースである「調査検証チーム」を庁内で立ち上げ、併せて学識経験者から意見を伺う「尾張旭市職員の公金詐取に関わる再発防止等検証会議」も設置しました。

現在、詳細な検証に全力で取り組んでおり、反省点と再発防止策を早期に取りまとめ、市民への説明責任を果たすことで、市政への信頼回復と、職員の綱紀粛正の徹底を図ってまいります。

▶ 基本姿勢

私は、学生や会社員の時代にわずかな期間、当地を離れたことがあるものの、尾張旭で生まれ育ち、その居心地の良さから生まれる、恵まれた日常に対し、日々有り難みを感じておりました。

特に本市は、暴風雨や地震などの自然災害に強く、犯罪発生率の状況も悪くありません。また、クリニックなどの医療施設が多く、かかりつけ医に、さほど困ることはありません。さらに公園緑地などの自然が豊かな一方で、スーパーマーケットや飲食店も身近にあり、鉄道をはじめとした公共交通網も充実しております。こうした、バランスの取れた住みよい街は、長年にわたる多くの方々の、たゆまぬ努力のたまものであります。

そうした中、早くも就任から1カ月が過ぎようとしておりますが、8万4,000市民のリーダーとして、課された使命の大きさや、職責の重さを日々痛感しております。現在、市が取り組んでいる事業の多くは、先人が既にさまざまな検討を重ねた結果であり、相応の理由によって今の状況にあるものと考えております。このため、市民の皆様とのふれあいや対話を通じて、市政へのご意見をお聞かせいただき、これまでの取り組みを的確に評価することから着手します。多くの方々からアイデアや知恵を集めれば、必ずそこに「新たな種」が生まれます。水やりを怠らなけ

れば芽が出て、花が咲き、実を付けることができます。この成果の実を、市民の皆様と一緒に分かち合ってまいりたいと考えております。

現在の地方行政には、事業の継続性ととともに、時代に適応した柔軟な変革も求められています。先日、ご退任された森和美前市長は、本市始まって以来の大事業であった「全国植樹祭」を成功裏に開催されました。そして、何よりも市民の命を守るため、「コロナ禍」という非常事態に全力で立ち向かい、議員各位の多大なるご支援のもと、早期のワクチン接種や各種の支援策を実施されました。またその一方で、子育て支援策や印場駅のバリアフリー化、稲葉地区への企業誘致といった数多くの事業も手掛けるなど、見事「オンリーワンのまちづくり」を実現されました。

私は、スローガンを「市政の安定とさらなる発展を！」とし、市民・議会・行政が同じベクトル上で、それぞれの役割を果たしながら、市民生活にとって、より良い形を追求していく姿を思い描いております。そして、市政のレガシーを、次の世代へと確実に引き継ぐため、堅実かつ着実な発展を、我が故郷「尾張旭」にもたらしたいと考えております。

もとより私には政治・行政の経験はありませんが、民間企業での42年間の経験と実績のほか、企業経営の知見を生かし、従来とは異なった視点から、斬新な発想で市政に新しい風を吹か

「もっと住みやすい街へ やっぱり住みたい街へ」の実現に向けた重点施策

① 安全安心	大規模災害に備えた体制の強化・拡充、浸水対策・雨水幹線の整備の推進、地域防災力の強化など
② 健康・福祉	健康都市の取り組みの継続、感染症対策の充実・強化、ワクチン施策の推進、介護サービス・認知症対策の充実など
③ 子育て・教育	保育園や放課後児童クラブの整備、確かな学力を育む教育の推進、地域と学校の連携・協働による教育の実現など
④ 経済・多様性	中小・小規模事業者への支援、スタートアップの創業支援、事業継続への支援など
⑤ 環境・都市基盤	三郷駅周辺街づくりの推進、公共交通の充実、高齢者の移動支援、愛知県森林公園の活用推進など
⑥ 共創・行政経営	自治会・町内会活動支援の充実、SDGsの取り組みの推進、高齢者に向けたデジタル活用の支援など

せてまいりたいと考えております。何かと足らざる点も多いことと思いますが、皆様方のご指導やご鞭撻を賜りながら、市政発展のため、粉骨砕身、全力を尽くしてまいります。

▶ 課題認識

私は、企業人であった時から、「少子超高齢化」と「人口減少」が、我が国をむしばむ深刻かつ最大の課題であると認識しておりました。5年後や10年後の自身や家族、家庭の姿を想像しますと、こうした現状は正に「今ここにある危機」であると考えます。

しかし、流入人口が流出人口を上回るような方策を、早急に、また真剣に考えれば、今ならこれにあらがうことができると思います。そのためには、「住みやすい街」に関する取り組みだけでなく、同時に「住みたい街」へと変貌するための取り組みも必要となります。

自分の子どもや孫が社会人となり、また家庭を築くとき、「やっぱり生まれ故郷に住みたい」と思ってくれるような街であって欲しいわけです。子育て世代に、尾張旭をついのすみかに選んでもらえるような街づくりを、今後さらに目指す必要があります。

▶ 取り組み内容

そこで、今回の立候補の際には「もっと住みやすい街へ やっぱり住みたい街へ」をキャッチフ

レーズに、その実現に向けた重点施策を、6項目に分けてお示ししました。

なお、その他にも実施すべき重要な課題は、いくつもあるかと思いますが、今後、議員各位はもとより、市民や事業者の皆様とともに、確固たるものに上げてまいります。また、その際には、事業の重要性や緊急度をもとに、優先順位を総合的に判断し、めりはりの利いた行政運営を進めてまいります。

以上、現時点で私が考えていることの一部を申し上げました。まだまだ十分とは言えない内容ではありますが、市政を担う向こう4年間において、これらの施策を目に見える形で推進し、市政の着実な前進と尾張旭の発展の成果をもって、市民の皆様のご期待に応えてまいります。

昨日よりも今日、今日よりも明日がもっと輝ける街、その実現のために最善を尽くしてまいりますので、市民の皆様や議員各位の多大なるご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

※所信表明の全文は、
ホームページをご覧ください

